

皇居東御苑



大手門



1606(慶長11)年に江戸城の縄張りされ、翌年完成した江戸城の玄関。1620(元和6)年の江戸城修復に際し、伊達正宗らの力により現在のような櫓形形式の城門となった江戸城の正門。その警備は鉄砲30丁、弓10、長柄20という嚴重なものだったとか。

同心番所



江戸城の正門であった大手門から入城した大名が最初に通る番所で、与力、同心が詰めて警護にあたっていた。

百人番所



江戸城の正門だった大手門から、本丸に入るときの最大の検問所がこの百人番所で、甲賀組、根来組、伊賀組、二十五騎組の4組が護りを固めていた。各組には、同心百人ずつが配属されていたところから百人番所の名が生まれた。

大番所



他の番所より格上で、位の高い与力、同心が詰めて警護にあたっていた。

松の大廊下跡



忠臣蔵でおなじみの元禄14年(1701年)3月14日赤穂藩主・浅野内匠頭長矩が殿中で刃傷沙汰を起こした場所。障壁画に「松」を主題にした絵が描かれていたことから「松の大廊下」と呼ばれた。

天守閣跡



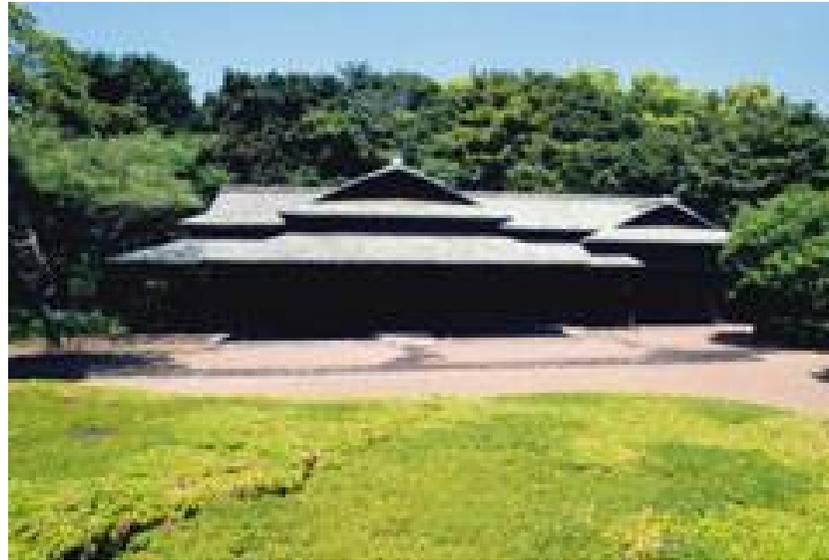
江戸城の天守閣は、慶長12年(1607年)に完成した。当初、石垣の高さは約14メートルあり、その上には金色の鯨をいただいた我が国最大の5層の天守閣がそびえていたが、明暦3年(1657年)の大火で焼失した後は、再建されることもなく、基礎石である石垣だけが残っている。現在の石垣の高さは、皇居東御苑公開に伴う整地等により約10メートルとなっている。

汐見坂



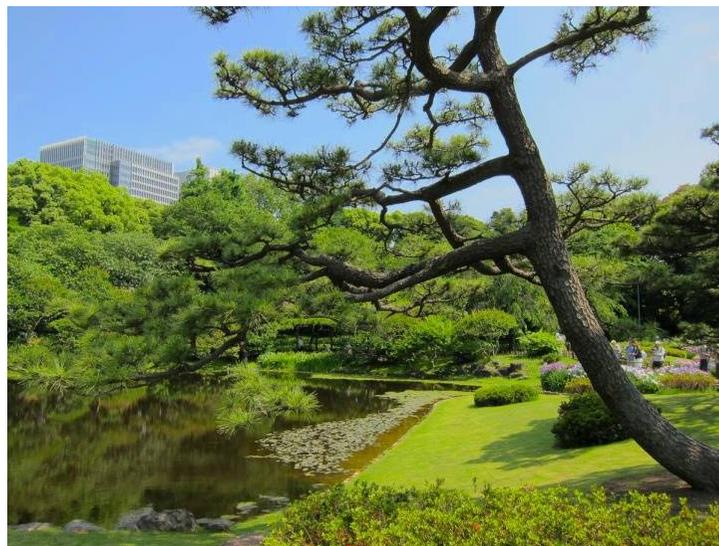
昔はこの坂から海が見えたのが名称の由来。坂を下りると、三代将軍徳川家光の命により小堀遠州が造ったとされる二の丸庭園がある。

諏訪の茶屋



明治45年(1912年)に吹上御苑に建てられたものを東御苑の整備にあたり移築された。

二の丸庭園



江戸城二の丸は本丸の東側に位置し、3代将軍家光の命で1630(寛永7)年に小堀遠州の手により遊行のための庭園を造成。家光と秀忠との茶会が催されている。2代将軍・徳川秀忠が死去した後の1636(寛永13)年には二の丸御殿が建てられ東側に庭園を配置した。現存する庭園は往時の庭園を昭和43年に復元したもの。